



## 地域医療の充実に向けて 病診連携報告会をラポールひらかたで開催しました



報告会では、さまざまな質問や活発な意見交換が行われました。上の写真は内科の抗リン脂質抗体症候群の講演後、質問を行う森川医院・森川正章先生。

1月26日(土)午後3時から、市立枚方市民病院主催、枚方市医師会・枚方市歯科医師会後援の「病診連携報告会(くらわんかフォーラム)」をラポールひらかた4階の大研修室で開催しました。

この報告会は従来から院内医師の勉強会として開催していましたが、平成13年からは地域の先生方にもご参加いただき、地域の医療機関との連携を深める報告会となっています。



「枚方市におけるマンモグラフィ併用乳がん検診の実績と成果」の講演後、会場の質問に答える丸岡医院・丸岡博史先生。



山羽歯科医院・山羽徹先生は「開業医における歯周病・インプラント治療への取り組み」を講演。参加者は熱心に傾聴されていました。

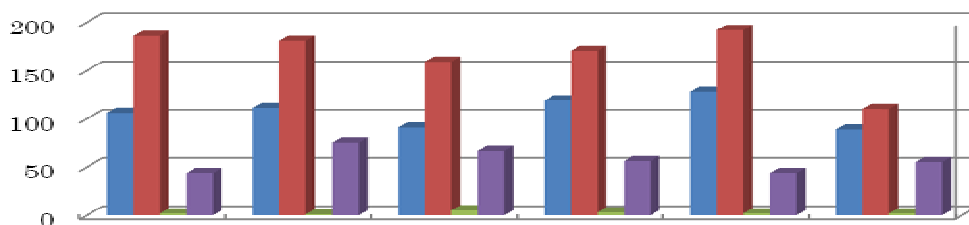
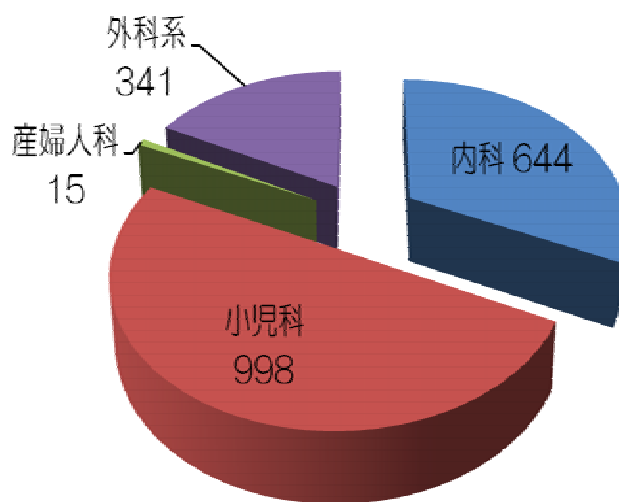
連携報告会は枚方市医師会・岩井浩会長のあいさつで幕をあげ、続いて森田眞照病院長、市民病院医師会・伊藤尚(耳鼻咽喉科)会長が参加へのお礼と今後の連携強化をお願いしました。とりわけ今回から枚方市医師会、枚方市歯科医師会の先生方にも講師としての参加を依頼し、快く承諾していただいたことに感謝を述べました。

院内からは 下腿浮腫、発熱にて発症し、抗リン脂質抗体症候群を疑った例(内科) 溶連菌感染症急性期にリウマチ熱の診断基準を満たしていた例(小児科) 向精神薬投与と支持療法的な関わりで寛解に至った執着気質的性格の特発性歯痛症例(口腔外科) 脳外科での腰椎手術、診断に苦慮した虫垂癌の例(内科) 経皮内視鏡的胃ろう造設術(PEG) クリニカルパスの地域連携(看護局) 総胆管結石の治療経験(外科)等の講演が行われました。

枚方市歯科医師会・村上卓会長は閉会のあいさつで「今後もさらなる医療連携を枚方市民病院にお願いします」と結ばれました。

# 年末年始の患者数は1998人でした

平成 19 年度年末年始の救急外来は、前年度と比較して内科 132.5%、小児科 118%、外科系 137%、産婦人科 100%、全体で 125.3%の大幅な伸びとなり、過去 5 年間と比較しても最高となりました。年末年始期間中は、比較的穏やかな暖冬でインフルエンザや流行性感冒の患者様は減少しましたが、感染性胃腸炎の流行や交通事故等の外傷による患者様が增加し、また、午前 9 時から午後 2 時までの時間帯に患者様が集中したことで救急の待ち時間が大変長くなりました。



	12月30日	12月31日	1月1日	1月2日	1月3日	1月4日
内科	106	111	91	119	128	89
小児科	186	181	159	170	192	110
産婦人科	2	1	5	3	2	2
外科系	44	75	67	56	44	55

## 集団災害対応訓練を行いました



自然災害や事故などにより、一度に多数の被災者が発生した場合を想定し、できる限り速やかに多数の被害者を病院に受け入れて治療を行う、「集団災害対応訓練」が 2 月 19 日午後 4 時から実施されました。訓練では「集団災害発生」を院内放送で周知するとともに、災害対策本部を設置し、各部署は一般診療を中止して被災者の来院に備えました。被災者一人ひとりには「トリアージ・タグ」により重症度と緊急性によって分別されました。「トリアージ・タグ」は阪神淡路大震災の教訓から総務省消防庁によって書式が統一されており、黒 赤 黄 緑の順にカテゴリーが軽度となっています。参加した職員は真剣な面持ちで訓練に臨みました。



# 新型インフルエンザ患者移送をシミュレーション

2月7日(木)、枚方市民病院で大阪府健康づくり感染症課、枚方市医師会、枚方保健所、高槻保健所、枚方市民病院の合同による新型インフルエンザ患者移送訓練が実施されました。こうしたシミュレーションは昨年6月27日、11月13日に続き3回目となります。

新型インフルエンザのフェーズ4(下の表参照)以降で、府内で新型インフルエンザ患者が発生し、入院勧告措置に基づいて感染症指定医療機関や結核病院で患者受け入れが行われている状況において、要観察例が発症したとの想定で訓練が行われました。今回は高槻市内に住むA子さんが発熱(40度以上)と咳症状を発症し高槻保健所担当者にその旨を報告。大阪府健康づくり感染症課へ連絡後、入院する病院の調整及び公衆衛生研究所での



検体検査を依頼、事前調整していた枚方市民病院に入院治療を要請して感染症病床へ受け入れを決定、搬送するという想定で行われました。新型インフルエンザとは、厚生労働省の「新型インフルエンザ対策報告書」(2004年8月)によると、「過去数十年間にヒトが経験したことがないHAまたはNA亜型のウイルスがヒトの間で伝播して、インフルエンザの流行を起こした時、これを新型インフルエンザウイルスと呼ぶ」と定義され、WHOフェーズの4以降において、流行しているウイルスについてこの言葉を使用するとされています。



## パンデミックとは

もともとの意味は、地理的に広い範囲の世界的流行及び非常に多くの数の感染者や患者を発生する流行を意味するもので、AIDSなどにも使用されてきました。インフルエンザ・パンデミックは「新型インフルエンザウイルスがヒトの世界で広範かつ急速に、ヒトからヒトへと感染して広がり、世界的に大流行している状態」をいいます。実際には、WHOフェーズの6をもってパンデミックということになります。

WHOによる「世界インフルエンザ事前対策計画」における警報フェーズ

パンデミック間期	ヒト感染のリスクは低い	1
動物間に新しい亜型ウイルスが存在するがヒト感染はない	ヒト感染のリスクはより高い	2
パンデミックアラート期	ヒト-ヒト感染は無いが、または極めて限定されている	3
新しい亜型ウイルスによるヒト感染発生	ヒト-ヒト感染が増加していることの証拠がある	4
	かなりの数のヒト-ヒト感染があることの証拠がある	5
パンデミック期	効率よく持続したヒト-ヒト感染が確立	6

## 病院トピックス

### 演奏やコーラスで クリスマス会



市民病院のクリスマス会が12月20日(木)1階のロビーを会場にして開かれました。

オープニングは枚方市役所職員で結成する軽音楽バンド「コン・ア・フェット」によるクリスマスソングやポピュラー音楽の演奏。続いて、枚方市内のアマチュア混声合唱団「A サウンド」が登場。素晴らしいハーモニーを披露し、エンディングには病院職員も加わり患者様と一緒に「きよしこの夜」などを合唱して一足早いクリスマスを楽しみました。

## スタッフ募集

### 看護スタッフ

日勤・夜勤勤務看護師及び助産師(パート)

日勤専門看護師(パート)

詳しくは総務課 072-847-2821、または市民病院ホームページをご覧ください。

### 編集後記

2008年になって初めての「かわせみ」の発行です。冬から早春にかけてのイベントを中心に掲載させていただきました。恒例の「くらわんかフォーラム」では、開業の医師、歯科医師の先生方の演題発表が特に興味深く、当院の医師たちも非常によい勉強をさせていただき、今後の病診連携にも大いに役立つことと思います。今年の冬は昨年に比べ、雪の舞う日も多く、体調を崩された方もいらっしゃると思いますが、これから徐々に厚着を脱ぎ捨て、身も心も軽やかになるとともに、元気が必ず戻ってくる暖かな春を心待ちにしながら毎日を健やかに過ごしてまいりましょう。

広報委員長 宇田るみ子(麻酔科)

## 新任医師の紹介



内科(消化器)

中平 博子(なかひら ひろこ)

出身 大阪府

趣味 ピアノ、ドライブ

はじめまして。1月より勤務させて頂き、ようやく色々な事に慣れてきました。皆様のために頑張りますので宜しくお願い致します。



外科

西村 東人(にしむら はると)

出身 大阪府

趣味 テニス一筋です

1月から赴任しました西村です。皆様のお役に立てるよう頑張りますので宜しくお願いします。



耳鼻咽喉科

但吉 民江(たじよし たみえ)

出身 京都府

趣味 旅行、映画鑑賞

まだまだ未熟ですが、頑張りますのでよろしくお祈りします。

4月1日～	眼科	小林 正人(こばやし まさと)
	眼科	宋 由伽(そう ゆか)
	小児科	小田中 豊(おだなか ゆたか)
	内科	姜 信午(かん しの)
	内科	後藤 拓也(ごとう たくや)
	麻酔科	浅野 麻衣子(あさの まいこ)

## 医師の退職

内科	合田 公志
外科	木原 直貴
耳鼻咽喉科	櫛原 健吾
眼科	中泉 敦子(3/31)
麻酔科	日下 裕介(3/31)